

2009年1月18日

今後のナショナルチームの在り方と2009年の活動方針

ナショナルチーム委員会

はじめに

ボート関係者の皆様には新年を迎え新たな気持ちでスタートを切られたことと存じ上げます。ナショナルチームについても、昨年12月日本ボート協会としての人事異動があり、運営体制が変わりまして新たなスタートをしたところです。

今回の運営体制変更の狙いは、以前より言われていた「選手はプロ、コーチもプロになったにもかかわらず、マネージメントだけがアマチュア」という状況を踏まえて、マネージメントについて、とてもプロと呼べるものではまだありませんが、ほぼフルタイムのマンパワーを投入して強化を図ろうというものです。

ナショナルチーム委員長がほぼフルタイムで従事いたしますし、現場でのサポート業務を行うフルタイムスタッフも投入いたします。

本稿は、そのような形で新たにナショナルチーム委員長に就任いたしました者として、第1に今後のナショナルチーム運営の基本的な考えをお示しすること、第2にヘッドコーチの任命の遅れなどで昨年11月にお示した今年の活動計画の修正を迫られておりますので、新旧体制で十分検討の結果、新たに2009年の活動方針をお示しすることにあります。

本稿をご一読いただき、関係各位のご理解とご了解をいただきたく心より願ひ上げます。

ナショナルチーム再考

今後の方針を示す上で、まず基本に立ち返り、そもそもナショナルチームとはどのようなものかを再確認することから始めさせていただきます。

ここにナショナル「チーム」とありますように、ナショナルチームはチームであり、日本を代表して五輪などで戦い、その結果は、日本ボートの勝ち負けとみなされます。決して代表選手の個人的な勝ち負けではありません。学生や実業団の多くのチームと同様にそこにかかわる多くの人たちが、その勝利を願ひ努力するという状況は、ナショナルチームでも変わらぬものと考えます。

その面で、ナショナルチームは代表選手を中心とする一部の関係者のものであるという考え方を否定することから出発したいと考えます。日本ボートの五輪でのメダル獲得を何らかの形で願ひ全ての人たちがナショナルチームの一員であり、サポーターであると考えます。

ナショナルチームを強くする組織作り

チームとしてのナショナルチームを強くすることも、従来からの特定選手の強化のみでは

成立しないと考えます。

次のようなより堅固な基盤を整えねばなりません。

① より多くのサポーターを組織すること。

ナショナルチームとは直接的な人的つながりがない、多くのボートファンにボート日本代表を積極的に応援してもらうことが大切です。このことは資金的にも広く薄くより多くの人たちに支えてもらうことを意味します。

② より系統だった強化を実現すること。

ナショナルチームを強くするためには、今年だけの強化ではなく中長期的強化が必要であることはいうまでもありません。そのためには競技力向上委員会との連携を深めつつ、中学生、U19 からシニアまで系統だった強化をより一層進める必要があります。さらに、それらを支える指導者の育成、特に優秀な日本人コーチを数多く輩出することが緊急の課題です。これらの系統だった指導とそれを支える指導者育成を可能とする基盤を整える必要です。

③ より多くのスタッフを組織すること。

代表選手へのコーチ活動などの直接的な強化活動だけでなく、強化活動を下から支えるいわゆるロジスチックをはじめとするスタッフ組織も強固なものにする必要があります。現在の財政状況では、これらの部分をボランティアベースでお願いせざるをえませんが非常に大切な部分です。ここには、現状、大変お世話になっている代表選手の出身母体の強力なサポートも含まれます。

④ より円滑なマネジメントを実現すること。

これらの基盤整備は多岐にわたりますが、その実現のための「潤滑油」としての効率の良いマネジメントが求められます。協会として、ある意味で一番遅れていたこの部分の強化が新体制の最大の責務ですが、実現すべく最大の努力をいたします。

これらの組織強化のためには、関係者一人一人の前向きな貢献が何よりも大切です。J.F.ケネディの有名な言葉、「祖国があなたに何をしてくれるかを尋ねてはなりません、あなたが祖国のために何をできるか考えて欲しい」がここでも当てはまると考えます。

これらの課題の実現には時間がかかると見られますが、いつまでも絵に描いた餅にせず、着実に実現していきます。

2009年の活動方針

次に、新たに見直すこととなります 2009年度の具体的な活動について強化活動を中心にお示しいたします。なお、U19については、高体連ボート専門部と協議しておりますので、稿を改めて示します。

大前提

① 先ず、ナショナルチームとして今、実現可能な望まれる組織体制、協力体制を速やかに確立します。特に、十分でなかった選手および選手の出身母体と日本ボート協会とのコミュニケーションを早急に改善します。

② 今年度は、オリンピックイヤーの翌年ということで、じっくり腰を据えた活動をします。特に、代表候補選手の集団、チーム JARA（もしくはクルーJAPAN、名称は考慮中です）を導入し、ある程度まとまった代表候補選手をシーズンを通して確保して、最終代表から外れた選手にも十分な強化活動が行えるようにいたします。言葉を変えるならば、絞り込み優先から発掘優先のシーズンにいたします。

③ 次の国際大会にナショナルチーム（シニア、U23、U19）を派遣することを確定します。

世界選手権（8/23~8/30、ポーランド）

東アジア大会（12/9~12、香港）

アジア選手権（11/2~9、台湾）

U23 世界選手権（7/23~26、チェコ）

世界ジュニア選手権（8/5~8/8、フランス）

アジアジュニア選手権（11/2~9、台湾）

派遣種目は、強化進捗状況、JOC との折衝などを踏まえて決定いたします。

この他の国際大会への派遣も強化活動の進捗を見ながら決定いたします。

当面の代表候補選手選考スケジュール

2月7日（土）もしくは2月8日（日）評価エルゴ漕による選考（詳細は別表をご覧ください）

2月16日（月）～22日（日）第1次強化選考合宿（詳細は別表をご覧ください）

3月2日（月）～9日（火）第2次強化選考合宿（詳細は別表をご覧ください）

4月以降の合宿等の日程については、ヘッドコーチ決定後、できる限り早くお知らせいたしますが、シニア、U23 については、4月までには、代表候補選手を選びチーム JARA を形成し、この中から参加する国際大会ごとに代表選手を選出する形といたします。従って、チーム JARA に入ると次に述べる入れ替えに該当しない限り、原則シーズンを通しての強化対象になります。チーム JARA メンバーについては、適宜入れ替える選考もチーム JARA 合宿と並行して行い、ボーダーラインの選手の入れ替えを行います。

なお、チーム JARA のメンバーは原則、JOC 強化選手申請を行います。

ヘッドコーチ採用の進捗状況について

大変、ご心配をおかけしておりますが、新ヘッドコーチについては、当初、最終選考まで進んだ候補者が、最終確認の段階で家庭の事情により急きょ辞退したため、第2の候補者

と交渉をしております。この候補者とは、1月19日に最終面接を行う予定です。
早急にヘッドコーチの確定ができるようにいたしますので、よろしくご了解のほどお願い申し上げます。

なお、上に述べてまいりました今期の方針については、今後就任するヘッドコーチに所与のものとして活動してもらいますので、ヘッドコーチの意向により今期の枠組みが変更されることはないことを申し添えます。

以上